様式4

平成31年1月30日

# 平成30年度　学校関係者評価及び改善策

（ 中間・(最終) ）

広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

| 評価項目 | ※評価 | 理由・意見 |
|---|---|---|
| 目標，指標の設定の適切さ | A | ○目標については，前年度の本委員会で示した課題（生徒の返事や発言の声が小さい）や願い（地域とのつながり）に対応した目標を設定している。<br>○指標についても，生徒・保護者・教職員のアンケート結果のみに留まらず，生徒の成長した姿の両面を見ながら設定している。 |
| 目標達成のための方策の適切さ | A | ○中間報告の改善策も簡潔に設定（①タブレットの活用，②授業における言葉磨き，③生徒の読書習慣）し，後期の取組を行っている。<br>○教務部や生徒指導部を中心に課題を整理し，授業改善の場面や生徒会活動，教職員のミニ研修などを通して具体的に方策を立案，実践している。 |
| 自己評価の結果と分析の適切さ | A | ○生徒アンケート，保護者アンケート，教職員アンケートと三者の評価を集め，適切に結果を把握し，生徒の成長した姿も見つめながら分析している。授業参観で，生徒の成長も実際に実感することができた。 |
| 今後の改善策（案）の適切さ | A | ○2学期までの取組の成果と課題を整理し，来年度に向けて具体的な改善策を設定している。ぜひ，具体的な方策まで落とし込み取り組んでほしい。また，学校長が来年度の研究の方向性を示したことも良かった。 |
| その他 | | ＜授業参観を通して＞<br>○前回（中間報告の時）の課題であった協働する場を設定することについては，意識的にペアやグループを活用するなど生徒同士のつながりを意識させる場面があった。<br>○前回，指導者の説明が早口になる傾向があったが，今回は，指導者が言葉を選びながら適切な指示や評価を行っていた。研究の「言葉磨き」について，指導者が意識していることがよく伝わってきた。<br>○タブレットの活用についても，単にドリルなど個々が学習することに留まらず，挑戦問題に向けて情報収集のツールとして使用していた。何のためにタブレットを利用するのか生徒もよく理解している。<br>○どの授業も指導者が生き生きとした表情で教えている。また，単元のゴールの姿を明確に生徒に示しながら授業を行っている。教室もよく整理している。<br>●前回の課題であった，生徒の返事や発言の大きさについては，もっと自信を持って堂々と行ってほしい。また，発言内容についても高めてほしい。<br><br>＜全体を通して＞<br>○小学校から生徒たちを見守っているが，学年が上がるにつれて，成長を感じる。<br>○立腰の取組の成果で，授業中の生徒の姿勢が素晴らしい。<br>○地域とともに保護者を巻き込んだ教育活動を展開している。<br>●アンケート結果からも生徒のメディアコントロールに課題がある。 |

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価を受けての今後の改善策 | ①授業改善について【ことば磨き】<br>・　生徒の呼名の返事と発表時の起立し声を大きくする指導を徹底させる。<br>小学生には，皆が聞こえる大きな声で発表させる。<br>中学生には，それに加え根拠を添えながら中身のある発表にさせる。<br>・　生徒同士で意見をつなげる授業づくりを行う。<br><br>②タブレットの活用について（呉市タブレットモデル校）【ICTの活用】<br>・　目的に応じてタブレットをツールとしての効果的な活用の実践をさらに積む重ねていく。<br>③生徒のメディアコントロール能力の育成について<br>・　生徒の自律能力を鍛えるための保護者を巻き込んだ生活改善プログラムの研究を進める。<br>④　来年度の学校としての挑戦問題<br>・豪雨災害を受け，避難所としての学園の役割を探究していく。<br><br>⑤教職員の業務改善について<br>・スクラップ&ビルドにより業務を精選し，今後も生徒の表現力を高める指導やドリルタイムなどによる学力の定着に向けて，直接生徒と向き合う時間をさらに確保する。 |